



「夢かなえた相撲人生です」

大相撲の元十両琴嵐

栗 佳史さん (47歳)

第24回

「小さな大横綱」と呼ばれた千代の富士に憧れ、15歳で角界に飛び込んだ寝屋川市出身の栗佳史さん。力士の中でも一握りしかならない関取の地位につき、引退後もちゃんこ鍋の店を開いて「相撲人生の続き」を歩んでいます。

「相撲取りになるんや!」ラグビーで鍛え入門

相撲ファンの父親の影響で小学校のときに、将来は相撲取りと決めていました。体を大きくするために、相撲部がない市立第六中学校でラグビー部に入り、大柄な選手が多いフオワードを志願しました。

母親のつてを頼り、中学校1年生の春休みには元横綱琴嵐の佐渡ヶ嶽親方に会いしました。「しっかりスポーツをやりたい。この言葉に、勉強そつちのけで頑張りました」。体重は20kg増えて86kgになり、卒業と同時に入門しました。

しかし、新弟子検査で身長合格基準173cm(当時)をクリアできるかが微妙で、髪をポマードで固めて臨みましした。「元横綱の」北の湖親方に「もつと伸びてみる」と言われてドキドキしましたが、結果は合格でした。

就職場所と言われる3月の大阪場所です。初土俵を踏み、序ノ口の5月場所はしこ名を

「琴嵐」に。平成2年1月場所は序二段で7戦全勝を果たしました。しかし優勝決定戦で敗戦。「決定戦の相手よりはるかに強い(後の横綱の)武蔵丸から7勝目を挙げ、優勝の期待も大きかっただけに悔しい思いをしました」。

「大銀杏のまげ結い感激」幕下32場所です。かんた十両

この年最後の場所です。幕下に昇進し、しこ名も改め「琴嵐」に。相手の懐に入り多彩な技で攻める相撲が上手でしたが、「しこ」一番に弱く、何度も辞めようと思いましたが、父親に励まされて思い直しました。

そして迎えた8年3月。地元大阪場所です。4勝3敗と勝ち越し、幕下32場所目です。ようやく十両昇格を決めました。「夢だった関取になれ、両親と抱き合って泣きました」。

大銀杏のまげは関取の証し。給料が支給され、個室も与えられます。「幕下と十両を境に一変するのが大相撲の世界。十両昇進が一番うれしかった」。

私とふるさと

大相撲の世界に飛び込むまで成田山不動尊の近くで暮らし、2歳違いの弟と一緒に市立第五小学校、第六中学校に通いました。小学校2年生のときに母と再婚した育ての父親は、私たち兄弟をかわいがってくれました。休みには、近所の友達も連れて毎週のように自転車で淀川の河川敷へ行き、相撲やキャッチボールで遊んでくれました。

当時、ザ・ドリフターズ(音楽バンドのコントグループ)の大ファンだった私は、市民会館で行われた公演を見に家族と一緒にいったことをよく覚えています。

今は大阪市内に住んでいて、寝屋川市内の実家には年に1度か2度は帰ってきます。

「相撲部屋は料理学校です」ちゃんこ番の腕生かし開業

廃業後、ちゃんこ番で覚えた腕を生かし、鍋料理店を開業。「魚のさばき方など全て習い相撲部屋はまさに料理学校です」。大阪市内にある店内には現役時代の写真が飾られています。その1枚に収まる「花の六三組」と呼ばれる元横綱の貴乃花や曙。「一緒に初土俵を踏んだ同期生。6年前に店に来てくれたのが私の自慢です」。土俵を去っても、夢をかなえてくれた相撲人生は続いています。



あふたーわーど Afterword

今月号の特集で市民の皆さんにインタビューをし、寝屋川市への本音を聞きました。正直、こんなに皆さんの声が集まるとは思ってなかったです。どのコメントを載せるかも真剣に考えました。ほんまにありがとうございます！



市公式アプリ
もっと寝屋川



市フェイスブック



市ツイッター

iOS用

Android用



市ホームページ



市 YouTube
公式チャンネル